

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：14403

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25590241

研究課題名(和文) 農業インターンシップの就農への影響と課題～非農家出身の新規大卒者を対象に～

研究課題名(英文) The impact and challenges of agricultural internships on farm work

## 研究代表者

田崎 悦子 (TASAKI, Etsuko)

大阪教育大学・学内共同利用施設等・准教授

研究者番号：60508745

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：農業インターンシップを体験した農学系大学の学生と、就農のための「農業研修」を修了した新規就農者、農業指導者を対象に調査を行い、農業インターンシップと農業研修の現状と課題、キャリアに与える影響を明らかにした。

農業インターンシップは、農業・就農の進路選択と実行に影響を与えていた。農業研修では、受け入れ側(JA、自治体等)と研修生の情報共有(キャリア志向、農業理解レベル、営農形態等)、農業指導者の指導・育成力、農業指導者に対する受け入れ側の支援が不足しており、研修効果をあげるためには、これらの課題を解決する必要があることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The current situation and life-study of agricultural research and agricultural internships carried out by experienced agricultural leaders for university agricultural students and new farmers who have completed agricultural training showed an impact on their careers. Agricultural internship had an impact on course selection and implementation of agriculture and farming. In the case of farmer training information shared on both the receiving side (JA and municipalities) and trainees' side lead to an understanding of levels and desires in terms of farming aspirations. But this exchange, as well as the guidance given by experts and the nurturing of trainees was found to be insufficient, and it was revealed that an increase in training effect is necessary to solve these problems.

研究分野：農業者人材育成(キャリア教育、生涯学習、指導・育成技法等)

キーワード：農業インターンシップ 農業研修 非農家出身 農学系大学 新規就農 農業キャリア 農業者人材育成 農業指導者

1. 研究開始当初の背景

農業の雇用と担い手づくりでは、新規参入者の実態や就農ルートが多様化している現状から、農業が職業選択のひとつになってきていることがわかる。その中で、農業体験などの農業インターンシップが、キャリア選択に影響を与えていることが報告されている。特に、非農家出身の新規学卒者の雇用就農では、農業インターンシップや就農準備校の役割が大きいことが示されている。

しかしながら、農業を進路選択した非農家出身者に、農業インターンシップの影響や就農支援の現状や課題に焦点をあてた研究は十分とはいえない状況にある。

2. 研究の目的

本研究は、農業を進路選択した非農家出身の新規大卒者（大学院修了者、第二新卒者を含む）等の若年者が、『大学から社会へ移行』する段階で体験する農業インターンシップ（農林水産省管轄の農業インターンシップ）と、就農前の農業研修に焦点を当て、学生がインターンから職業として農業に就くまでの進路選択に与える影響、農業研修の実態と課題を明らかにするものである。

具体的には、では、大学の学外農業インターンシップのインターン経験学生、では、農業研修を修了した新規就農者、農業研修生、受け入れ側である農業法人、就農支援学校・団体、JA、自治体、農業研修の指導農家等、を対象として、農業インターンシップに対する考え方や意識（期待、要望等）、農業研修の評価、要望等を明確にすることで課題を解明するものである。

3. 研究の方法

研究目的を達成するために、以下のルートを活用して、就農支援（受け入れ）側団体、新規就農者、研修生・研修修了者、農業指導者にアンケート調査、聞き取り調査、インタビュー調査（半構造化面接）を行った。

就農支援側ルート

- ・JA、自治体、財団、公社
- ・就農準備校（農業スクール等）
- ・ヘルパー団体（酪農ヘルパー、農作業ヘルパー）

農業法人（経営者）ルート

教育機関（農学系大学・短大、農業専門学校、農業大学校）ルート

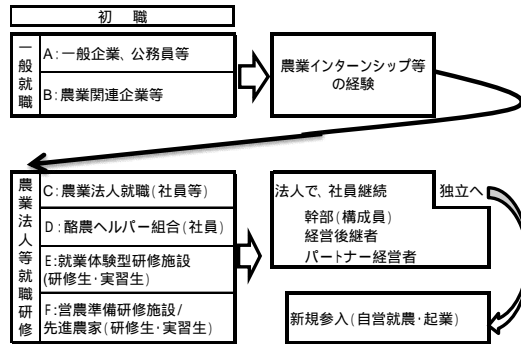
本研究では、農業を進路選択した非農家出身の新規大卒者（大学院修了者、第二新卒者を含む若手就農者）が、『大学から社会へ移行』する段階で体験する農業体験や学外での農業インターンシップと、就農予定者対象の農業研修を広義の「農業インターンシップ」として位置づけ、学生および若年就農志望者がインターンシップ体験から職業としての農業に就くまでの過程とキャリア形成、その過程における影響と課題に焦点をあてた。

4. 研究成果

(1) 研究で得られた主な成果

非農家出身者が経験する農業体験等を含めた広義の農業インターンシップは、「学卒後すぐの就農（初職選択）」や「転職して就農」というキャリア選択と決断・実行に至る重要な役割を果たしている。また非農家出身者の就農に至る多様なキャリアプロセスを明確にすることができた。

表1 転職型の就農プロセス



就農予定者対象の就農前の「農業研修」は、昨今、研修生の大半が大学・院卒で、農業技術と農業経営の習得意欲が高く、具体的・理論的な説明や指示を求める状況に対し、指導農家の力量が追いつかず、現行の「育成システム」や「指導・育成できる人材」、そして「助成制度の運営」等において多くの課題があることがわかった。

表2 指導・育成の方法・状況 (N=12)

	指導農家による指導の状況	あてはまる・良くあてはまる	ややあてはまらない	全くあてはまらない
説明・指示	仕事の指示をわかりやすくしてくれた	58%	25%	17%
	仕事の全体像とあなたに任せる仕事の関係を説明してくれた	25%	42%	33%
動機づけ・支援援助	わからないときに質問しやすい雰囲気だった	50%	25%	25%
	仕事でのミスが失敗につながらないように手助けしてくれた	50%	42%	8%
	仕事の成果をほめてくれた	33%	33%	33%
	仕事の最中に励ましてくれた	25%	42%	33%
成長促進	仕事につまずいたとき相談にのってくれた	33%	25%	42%
	自分の仕事内容をふりかえる機会をあたえてくれた	25%	42%	33%
	あなたの仕事について、客観的な意見をくれた	58%	17%	25%
	あなたの仕事について、新たな視点をあたえてくれた	33%	42%	25%
	あなたに背伸びが必要な、少し難しい仕事を任せてくれた	58%	8%	33%
相談	あなたに次の仕事への改善点を聞いてくれた	50%	17%	33%
	人生・職業観などの話をしてくれた	67%	17%	17%
	生活・就農などの相談にのってくれた	42%	25%	33%

\* 中原（2012）のOJT指導員の行動に関する探索的因子分析の項目を参考に筆者が作成

研修生及び研修修了の新規就農者、農業指導者、受け入れを支援する JA、自治体等への調査から、農業研修（新規就農研修）の課題が明確になった。研修生の状況（キャリア志向、農業の理解レベル、希望営農形態、価値観等）の情報共有、研修プログラムの設計（研修生ニーズに即した設計）と改善、研修生への事前学習の付与（実習開始前の農業知識の習得）、農業指導者の指導技術（教え方）の養成との支援（困り・悩む気持ちの受けとめ等）等が必要である。研修生、農業指導者双方に不満と要望があるものの、受け入れを支援する側が、必要以上に「遠慮と配慮」をすることにより、不満と要望といった重要な情報が共有されていない課題が浮かび上がった。

研修生及び研修修了の新規就農者、農業研修の指導者、受け入れを支援する JA、自治体等への調査から、新規就農研修の効果をあげるための課題が明確になった。受け入れ側が研修生の状況（キャリア志向、希望就農形態、価値観等）の共有、研修プログラムの設計と改善（研修生ニーズの把握による設計）研修生への事前学習の付与（実習開始前の農業知識の習得）、指導者の指導技術（教え方）の育成、指導者への支援（困り・悩む気持ちの受けとめ等）が必要であり、双方に要望があるものの、必要以上の遠慮と配慮により共有されていないことが明らかになった。

道内の農学系大学等すべての農業・農業関連企業等への進路状況、学内の農業実習と学外の農業実習（学外農業インターンシップ）の概観をまとめることができた。

学外農業インターンシップの調査では、一般的な企業等での就業体験型のインターンシップとは異なる「職住一体・地域滞在（農家で宿泊しての実習）」であることに着目をした。調査結果は、実習体験が、農業技術・知識の理解、全般的な仕事の能力・スキルの習得、農業の職場・仕事・生活密着の働き方を理解する役割を果たしていることを明らかにした。また、実習の満足度、体調変化、体験日数の長さに対する感じ方は、これまでの農業経験・農村生活経験の有無、就農か農業関連かそれ以外かの進路により相違があることが明らかになった。

表3 卒業後の志望進路と体験日数適切感

		就農 n=29(25%)	就農以外 n=85(75%)
実践を学ぶ期間	適切	81%	75%
	短い・短すぎる	12%	14%
	長い・長すぎる	8%	11%
日常から離れての暮らしの期間	適切	73%	29%
	短い・短すぎる	12%	4%
	長い・長すぎる	15%	66%

学外農業インターンシップは、農学系大学の非農家出身学生にとって、卒業後に農業のどの分野（農業法人就職、新規参入型就農、農業法人就職後に新規参入、農業系企業に就職、農業高校教師等）とかかわるのかを検討し、選択する機会としての役割を果たしていた。特に、大学入学時に就農を志望していた学生、農業が好きな学生が就農を決断するなど、将来のキャリア選択、キャリアプロセスで影響を与えていた。

表4 実習後（2年生9月）の進路選択

実習後の進路選択	非農家	農家
就農を目指している(以下、内訳)	29%	30%
後継	0%	27%
農業法人就職後に後継	0%	0%
新規就農(独立経営)	6%	0%
農業法人に就職(研修後含む)	16%	2%
農業法人就職後に独立	3%	0%
酪農ヘルパー団体に就職	3%	0%
農業関連の企業等に就職	30%	36%
専門分野関連の企業等に就職	30%	25%
農業・専門にこだわらずに就職	11%	0%
大学院等(進学・他大学へ転籍)	3%	2%
海外農業研修・インターンシップ	2%	2%
その他(未記入等)	11%	7%
合計(複数選択有り)	116%	102%

就農への意欲が高まるか、就農を断念するかには、受け入れ先農家の対応に影響を受けていた。就農意欲のある学生を農業の担い手へと育てるためには、受け入れ農家（指導側）の農業観、経営方針と経営状況、指導・育成力などから判断をして学生を派遣する必要がある。

非農家出身で農業に特段関心がなく農業高校に進み、教師のすすめで農学系大学に進学した学生は、学外農業インターンシップは、様々な影響を与えていた。農業という仕事と職業に対するプラスの理解、働く環境への深い理解、仕事に必要な能力・スキルの向上、農業と場になっていた。

表5 農業高校選択の理由と実習後の進路

NO.	農業高校の進学理由	酪農大進学の理由・きっかけ	入学時の進路イメージ	実習後の志望進路	進路選択の変化
1	動物が好き	大動物に関わりながら勉強ができる	就農も含め、野生動物に関する職業	牧場経営(そのために修行と免許取得)	検討後の決定
5	動物が好き	牛と一緒にいられる	牧場で働く	牧場経営(できれば)	検討後の決定
6	体を動かすほうが良い。自宅から通える高校	北海道へ憧れ、酪農大出身教師の影響	食品加工メーカー	専門分野をいかに食品加工会社等に就職	決定
7	体を動かすほうが良い。自宅から通える高校	農業高校の教員免許取得、酪農大出身教師の影響	農業高校教師	肉牛畜産牧場経営(その前に農業法人に就職)	変更
8	体を動かすほうが良い。自宅から通える高校	北海道へ憧れ、酪農大出身教師の影響	酪農家	農業法人に就職(農家レストランで生産から調理)など揺れている	変更

学業の自信がなく農業高校に入学した学生であっても、農業高校での経験（農業教育（知識と実習））が、農業の現場・実践で活かされることで、自分への自信につながることで、その自信や自分を活かす方向として、就農を進路選択する事例も確認できた。

### (2)国内における位置づけとインパクト

農業の担い手不足が論じられ長い年月が経過している。農業後継者育成だけでなく、非農家出身者への就農支援として、農業法人での農業インターンシップ、新・農業人フェアでの就農への育成体制の詳細な説明、各自治体の就農支援体制の確立、支援方法の改善などが図られている。また、経済的な支援も手厚くなり、「青年就農給付金(準備型・開始型)」等により、農業に関心のある学生や求職者が農業法人への就職や農業経営者になるための第一歩として農業法人を検討することが定着してきたように見受けられる。

しかしながら、担い手育成の視点からみると、農学系大学の非農家出身の就農志望学生に対する農業実習、学外農業インターンシップ等についての調査・研究は十分であったとはいえない。また、定年後の就農ではなく、20～30歳代の若年で、農業経営に参入する高学歴・社会人経験のある研修生のニーズや不満を把握するための研究は、ほとんど手をつけられていない分野である。そして、研修生に対する農業指導者の指導・育成の評価については全く未開拓の分野であった。

また、農業指導者の指導のあり方、指導方法・教え方の現状と、農業指導者の困りごとや悩みを直視して、どのような支援が必要であるかを、指導者自身に問うて明らかにする視点も稀有なものであった。

農業の担い手を育成するためには、就農志望者側と指導する側の内在化する思い（不満・困りごと・要望・求める支援等）を明らかにして、双方のギャップ（課題）を明確にし、研修生、指導者、双方を仲介する自治体等に対して、具体的な支援の必要を訴えた本研究は、今後の農業者人材育成の分野にインパクトを与えたものと言えるだろう。

### (3)今後の展望

本研究では、学外インターンシップを体験した非農家出身学生、就農研修の研修生、研修修了の新規就農者をはじめ、農業指導者など、数十名から90分程度の半構造化面接によるインタビュー調査を実施している。これらは現在、研究論文の一部に用いる程度にとどまっている。今後は、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、ないしは、ナラティブ・アプローチ等を用いて、人のこころに焦点をあて詳しく分析していきたい。

また、本研究では、農業指導者側の調査が、量的、質的にも不十分であり、地域も限定されている。このため、現在、エリアを北海道

全域に拡大して調査を実施中である。この調査結果により、指導・育成の現状と指導者が要望する支援のあり方が明らかになるはずである。より精度の高い分析結果により課題を明らかにしていきたい。さらに、今後は、農業経営者を支援する役割である農業普及指導員に対する調査を実施する予定である。

実証研究として、本研究結果を実践現場で活用するために、非農家出身の就農者育成を軸におき、高学歴で意識の高い就農志望者、あるいは、青年就農給付金の獲得を目的とした意欲の低い研修生を含む農業者人材育成プログラムの作成を計画している。具体的には、非農家出身者に加え、後継者も含んだ農業経営への初期段階で、「質の高い指導・育成のできる農業指導者」の養成と育成のあり方を検討している。育成する視点に立った指導法についての研修プログラムを試行実施しながら、一つの形をめざしているところである。また、農業指導者と新規就農志望者を支援する立場の自治体・JAなどの指導者への支援のあり方と体制づくりにもかかわる計画である。

### <引用文献>

- 香川文庸・長命洋佑、農業インターンシップによるジョブ・エントリーに向けたキャリア支援」金沢夏樹編集代表、日本農業経営年報（農業におけるキャリア・アプローチ - その展開と論理 - ）7、2009、288-297
- 木南章・木南莉莉、農業インターンシップの事業特性と事業効果—参加者満足度と雇用実現の規定要因、農業経営研究、52(1)、2014、43-48
- 澤田守、就農ルート多様化の展開論理、農林統計協会、2003
- 戦後日本の食料・農業・農村編集委員会編、戦後日本の食料・農業・農村 農学・農業教育・農業普及、農林統計協会、2003
- 全国新規就農相談センター（全国農業会議所、農業法人等における雇用に関する調査結果、2011
- 田崎悦子、農業インターンシップが進路選択やキャリア形成に与える影響 - 北海道で就農した若年者と研修生を対象に -、札幌大学総合論叢、35、2013、113-132
- 津田涉、農業インターンシップの実績と課題 - 就農ルート多様化の中の就農支援 -、金沢夏樹編集代表、日本農業経営年報（雇用と農業経営）6、2008、38-45

### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 4件)

田崎悦子、学外農業インターンシップが農業高校出身学生の農業キャリアに果たす役割と可能性 非農家出身農学系大学生の農村滞在職住一体の農業就業体験を通

して、インターンシップ研究年報、査読有、18号、2015、13-23

田崎悦子、新規就農研修における課題と効果的な支援についての一考察～旭川市の農家研修を事例として～、都市学研究、査読有、52号、2015、11-18、

( )  
研究者番号：

〔学会発表〕(計 6件)

田崎悦子、農村滞在・職住一体型インターンシップの体験日数適切感と効果の関係、日本インターンシップ学会、2015.9.13、近畿大学、大阪府・東大阪市

田崎悦子、学外農業インターンシップが農学系大学非農家出身学生の農業キャリアに果たす役割と可能性、日本キャリアデザイン学会、2015.9.5、北海学園大学、北海道・札幌市

田崎悦子、農村滞在・職住一体型のインターンシップの影響と効果、日本インターンシップ学会、2014.9.7、北九州市立大学、福岡県・北九州市

田崎悦子、新規就農のための農業研修の現状と課題～旭川市の農業研修アンケート調査から～、北海道都市地域学会、2014.8.23、札幌学院大学、北海道・札幌市

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕なし

出願状況(計 0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等 なし

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

田崎 悦子 (TASAKI Etsuko)

大阪教育大学・学内共同利用施設等・准教授

研究者番号：60508745

(2) 研究分担者 なし

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者 なし